

神奈川県本部

〒231-0025 横浜市中区松影町2-7-12飯田ビル
TEL:045-663-4061 FAX:045-663-4062
メール:nenkinkanagawa@nifty.com

8月5日現勢 組合員 8,690名
機関紙 5,303部
年金改善署名 42,995筆 07.7署名 10,834筆



神奈川県版 第237号 2008年8月15日

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005 東京都豊島区南大塚1-60-20協立第3ビル
TEL.03(5978)2751 FAX.03(5978)2777
発行人 篠塚多助 月刊1部100円 送料70円
昭和57年6月30日第三種郵便物認可



年金者も炎天に負けず元気にパレード

原子力空母は来るな!

7・13全国集会 年金者組合も 800人が参加

後期高齢者医療制度廃止 この秋の取り組みが山場

国民の怒りを集中し 臨時国会で 制度廃止を勝ち取る

福田自公内閣は大幅な閣僚の入替えを行いました。国民の低支持は以前と変わらず(24%・朝日新聞)不信感は今もぬぐえていません。その最大の理由は、75歳でお年寄りを差別する後期高齢者医療制度をそのままにしていることです。政府は国民の怒りを押さえるために年金天引きのほか、口座振り替えを認めると大宣伝をしていますが、差別と医療費の負担増は手付かずです。さらに夫は年金天引き、妻は別に口座振り替えをすることで、税金の控除額が変わり、いまま

全組合員が短期間に 一挙に署名・要請を届け 不服審査請求も提出

後期高齢者医療制度廃止は、臨時国会での審議が最大の山場になります。1、年金者組合は、全組合員が行動に参加し、いま行っている新しい署名を組織内外で短期間

に集中して集め、「廃止」の世論を大きく組織します。具体的には、
① 臨時国会で審議が行われる前に、全組合員から署名を集める。
② 地域で老人会、町内会、他労組、民主団

先の国会では参議院で高齢者医療制度の廃止が決議され、今度の臨時国会で衆議院での審議が行われます。廃止をめぐり私たちのたたかいは天王山を迎えます。参議院選挙以来情勢は変化し、国民の声が大きくなれば要求を実現することができそうです。全力を集中してたたかう時です。

制度を廃止して出直せ 地域ぐるみの運動を組織

年金者組合横浜みなみ支部



デモ行進で区民にアピール

体などにも働きかけで署名を集める。
③ 駅頭や街頭宣伝・署名を、多くの組合員や他の団体にも協力をお願いして展開する。
2、地元の国会議員に要請行動。
各支部は地元の衆議院議員を訪ね、廃止を実現するよう要請する。

組合員は厚生労働委員にFAXで「廃止法案の成立」を求める。
3、地域で宣伝、学習会、決起集会を組織する。
4、不服審査請求運動にも引き続き取り組む。(第2次行動8月29日)
5、全自治体・議会に請願、陳情を提出して、国への意見書をあげさせる。

頑張っていると激励の声が多く寄せられました。運動の中心になったのが年金者組合みなみ支部で、区内で「制度廃止」の運動を大きく盛り上げようと話し合い、30人で学習会や、南区役所交渉を重ねながら、区内の労組を訪ねて署名や、運動の協力要請を行いました。

「原子力空母の配備を許すな、米軍基地の再編・強化反対」を掲げた7・13全国集会が7月13日横須賀・ヴェルニー公園で開かれ、3万人を超える仲間が集まりました。県本部は300人参加をめざしましたが、全支部からは2倍以上の約800人が参加して、年金者組合の幟を林立させ、米軍基地反対の強い意志を示しました。集会後、横須賀市役所まで執行部を先頭にデモ行進。米軍ゲート前では一斉に抗議の唱和を繰り返しました。

秋の仲間づくり

目標を

9月2日に交流集会

春の月間では皆さんの努力で424人の実増、県本部8690人に到達しました。10月、11月の秋の間では、春に掲げた9000人を目標とします。そのために支部活動交流集会を開いて全県組合員の意志を一つにします。

「支部活動交流集会」日時/9月2日(火)午後1時30分〜5時
会場/横浜地域職業訓練センター
講演/「年金者組合の歴史と役割」篠塚中央本部委員長
問題提起 県本部
参加者 各支部複数
交流集会で提案する

- ① 全支部が遅くとも再来年(10年9月)の県本部大会までに、高齢者比1%を達成する。その計画に基づき秋の月間の自主目標を設定する。
- ② 同時に同じ規模の支部は同じ目標(基準目標)に向けて努力する。
- ③ 仲間づくり協力者を組合員の10%組織する。
- ④ 月毎の目標の設定(10月末までに3分の2をやりきるを明確にする)。

さわやか女性のつどい

10月31日(金) エポックなかはら

＜川崎市総合福祉センター＞

楽しい催しで1000人参加

一人ぼっちをなくして輝いて生きる！「歌って踊って、笑って、そして学ぼう」第9回「さわやか女性のつどい」まで、3ヶ月となりました。

10月31日(金)、川崎中原エポックで午前10時開会。午前の部は俳優宝田明さんによる憲法9条を守る立場からの講演「俳優として人間として」で学び、午後は各支部からの出し物、合唱やおどり、寸劇などでおおいにお楽しみいただきます。

7月31日には川崎支部協・幹事会・実行委員会の合同会議を開催し、中原エポックで開催し、会場確認、任務分担、内容、プログラム等についての協議

長野・姥捨山で

怒りの大集会開催

9月28日・参加者募集

75歳を過ぎたらなるべく早く「あの世へ」とも云うべき、世界に類のない年寄り差別の後期高齢者医療制度は「姥捨山」政治だ」と怒りを呼んで

みやすめられました。今回の出演申込みは32支部にのぼり、時間のやりくりに嬉しい悲鳴をあげています。また、バザー申込みも12支部と多彩です。各支部では、財政活動、チケット配布、出演練習など、熱のこもった取り組みがすすまっています。

史上初の1000人規模を全支部の力で成し遂げよう、そして年金者組合の明日への活力とするため、力を合わせ一緒にがんばりましょう。

(松川千恵子)

第54回日本母親大会

県本部女性の会もアピール



花びらに願いがいっぱい書かれた大輪のひまわりの花をいくつも咲かせて壁面が飾られ、大会成功への草の根の熱い想いが伝わってきた第54回日本母親大会の会場。

年金者組合も、後期高齢者医療制度の廃止を訴え、各地の組合員が壇上上がり、横断幕や団扇でアピールしました。これは初めてのことでないかと思えます。

一日目の分散会「どうなる年金」(竹本光代さん全厚生講師)には、100人近く集まり、県本部からも4人が参加。

社会保険事務所の現場における矛盾と大変さが語られ、活発な討論の中で、現場と受給者が一体となって問題を解決していく大切さを確認。また、最低保障年金制度の確立など7項目にわたる決議文が採択され、その中には県本部からの女性の低年金、無年金に関する発言、「女性の雇用の改善と出産、育児、介護などの社会的貢献を年金に反映させること」も盛り込まれました。

二日目の全体会での講演は「憲法をくらし

の中に」(渡辺治さん一ツ橋大学教授)で憲法9条(戦争放棄)と25条(生きる権利)を車の両輪のようにくらしに生かす大切さが話され、国の政治を変えていく近道は地方の政治を変えていくことと力説されました。

まさに「その通り!」、後期高齢者医療制度の廃止運動がそれを物語っているとの思いを強くし、意見の違いを乗り越え、廃止の点で共同し運動を広げることの大切さを実感。また、草の根の力を合わせれば憲法をくらしの中に生かすことができると胸にひびき、大きな夢をいだいた素晴らしい大会でした。

(原・松川 記)

県知事に制度廃止を申し入れ

集団で不服審査請求を提出

—後期高齢者医療制度廃止の運動—

県本部は後期高齢者医療制度の廃止に向けてさまざまな行動を展開しています。そのひとつとして県知事に制度の廃止を申し入れ、もし継続するならば、県は財政の補助をして保険料の軽減をはかること。参議院が廃止を決めているのだから、衆議院での結果が出るまでは徴収を凍結せよ。保険料の天引きを振り込みで所得税に差が出る問題の

解決も行えなどの要求もしました。

7月30日には県社協の呼びかけで、集団として初めて、この制度の「保険料問題」「年金天引き問題」など不服審査請求を行いました。

県庁前には年金者組合をはじめ、各団体から150人が参加。請求前に学習と記入の集会を開き、引き続き県庁前で座り込みを行いながら、代表が県知事への要請、不服審査請求書を出しました。



県庁分庁舎前で怒りの座り込み

仲間を増やすサークル活動

経験交流会

9月22日に開催

全国一の仲間を増やした春の月間。その力になったのはサークル活動です。「友達がほしい。これまでやりたかったことをやってみよう」という多くの人の希望に応える、各支部のさまざまなサークル活動の取り組みを学び合い、問題や苦労を出し合う交流集会です。積極的な参加を呼びかけます。

サークル活動経験交流会
日時/9月22日(月)午後1時30分
会場/横浜地域職業訓練センター

サークル活動でいきいき

拡大率トップの瀬谷支部

春の月間で瀬谷支部は拡大率16・8%で県内1位、達成率も127%で2位の好成績を納め、次は高齢者比1%を目指して頑張るぞと元気がです。

支部は5年前に旭・瀬谷から分離独立しました。発展する旭支部に対して瀬谷支部は、現状維持が続き、進歩が見られませんでした。なぜ組織建設が進まないかを深く掘り下げて検討した結果は、組織が組合員のニーズに答えていない。執行部と

組合員のふれあいが十分とありませんでした。そこでまず女性の会の再建を行い、折り紙やちぎり絵のサークルを作り、ビデオ上映会も始めました。女性が楽しくと集まり、新しい仲間が増えてきました。一泊旅行も組合員の3分の1以上が参加。ほかにサークルも増えて、新しい仲間を次々に迎えることが出来ました。いきいきとしたサークル活動が組織拡大を実証しています。

神奈川年金者文芸

(俳句) 平塚支部 露木 茂子
本堂に蚊遣香置く早雲寺
緑風引きさきき歩射の矢が走る
平塚支部 高橋 福松
高齢者梅雨に一揆の風興し
川崎麻生支部 阿部 和子
炎天下座して玉音聞く小三の
炎天下蟻の行列見入る孫

(川柳) 横須賀支部 山田 良夫
熟年の願いが響く猛暑デモ
整頓とメモが役立つ置き忘れ
旭支部 本間鈍根花
忘れんな世界唯一の被爆国
終戦後苦汁味い古希が過ぎ
旭支部 毛利やすひこ
酷い目にあわされてなお与党支持
文明国石油と一緒にズッコケル
横浜北支部 吉田 一夫
アメリカにぶら下がるのみ系瓜株
油照り身も世もあらず去勢され